

外房線と地域を守る会・第7回総会 久留里線廃線申請撤回、ワンマン運転反対の声

7月26日、「外房線と地域を守る会」の第7回定期総会が開催されました。

結成以来ワンマン導入に反対

早川会長は外房線の会結成以来、ワンマン運転導入反対を訴えてきた経緯を振り返り、「ワンマン運転導入直後に太東駅で乗客が転倒して大腿骨を骨折する重大事故が起きた。原因はワンマン運転と、ホームと車両の段差が大きいことだ」と訴えました。

会社は、首都圏を含めた全面的なワンマン化を進めています。千葉でも来春、総武緩行線の

8/13～14 千葉で記録的豪雨

8月13日から14日にかけて、千葉県内は記録的な豪雨に見舞われました。被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

JR職場でも駅構内が浸水するなど、被害が及んでいます。特に外房線では土気駅構内や土気～大網間の土気トンネルで道床が流出するなど大きな被害が発生し、現在も復旧作業が続いています。

被害の復旧、そして厳しい状況下での列車運行に日々あたっている仲間の皆さん、本当にお疲れ様です。

ワンマン化が行われようとしています。しかし、千葉では21年のワンマン化以降、外房線・太東駅での転倒骨折事故、内房線・江見駅での降車時にドアに首が挟まれかける事故など、重大事故が相次いで発生しています。

現実の現実の事故としてワンマン化による安全破壊が明らかになっているにも関わらず、さらなるワンマン化に突き進む会社を許すことはできません。

久留里線廃線は重大な問題

また、早川会長は久留里線廃線問題について、「外房線・内房線の廃止、地方消滅に関わる重大な問題」「通勤や通院の足が奪われ、観光にも大きな打撃となる課題」と訴えました。

来賓としてあいさつした内房線と地域を守る会の梅澤代表も、「地元住民や利用者の声を無視したものであり憤りを感じている」「バス運行が持続可能とは思えない」「鉄道の廃線は人口減少を加速させ、地域を衰退させることを理解しない愚かな行為」と訴えました。

久留里線を全面的な廃線化の「突破口」にしようとしているJRに対して、外房線、内房線の地域住民からも怒りと反対の声があがっています。廃線化、ワンマン化に対する地域の怒りとともに、職場から声をあげよう。